



弥生の出雲王に出会える

季刊

第37号

(2020年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

5月6日(水・振休)まで休館しています。(4月22日現在)
詳しくは、博物館ホームページをご覧ください。

開館10周年を記念して 常設展をリニューアル

出雲弥生の森博物館は、本年4月29日に開館10周年を迎えます。

開館からの10年を振り返ると、国富中村古墳、出雲国山陰道跡、鰐淵寺境内が国史跡の指定を受け、上塩冶築山古墳の出土品も重要文化財に指定されるなど、出雲市内の史跡・考古資料の価値が、次々と国のレベルで認められています。

また、縄文時代の集落から江戸時代のたたらまで、各時代の調査研究も進展し、郷土の歴史を解明するうえで貴重な資料や研究成果も、さらに充実してきました。

このような新しい情報をみなさまにお伝えするため、このたび、常設展をリニューアルすることとなりました。

西谷墳墓群の解説を軸に市内の歴史を紹介するという大きな流れは変わりませんが、次にあげる資料を追加することで、展示内容の拡充を図っています。

- 縄文時代の土器・石器
- 弥生時代の農具
- 上島古墳の馬具

- 猪目洞窟遺跡の人骨
- 鰐淵寺境内の大甕 など

さらに、上塩冶築山古墳をはじめとする最新の研究成果を紹介するためのパネルを新たに追加したほか、既設のパネルも現状にあわせて内容を修正しています。

また、休憩コーナーに「出雲の発掘350年史」を紹介した年表を掲示するなど、展示室外も学べるスペースとなるよう工夫しています。

このような展示品・解説パネルの変更に伴い、常設展図録である『出雲弥生の森博物館 展示ガイド』(税込1048円)も内容を改訂しました。見学にあわせてぜひお買い求めください。

今回のリニューアルのような、大きな展示内容の変更は、今後しばらくはありませんが、展示解説などは、来館者のみなさまのご要望にあわせてより分かりやすい表記に改めていきます。

今後も、小さな改善を積み重ねることで、多くの方々に愛され、楽しく学べる博物館をめざします。

(三原 一将)



休憩コーナーの年表パネル



最新の成果を反映した解説パネル



猪目洞窟遺跡の人骨を展示

★春季企画展

「『日本書紀』1300年記念
硯から見た古代の出雲」

好評開催中！5月18日(月)

今年、『日本書紀』が720(養老4)年に完成してから1300年となる記念の年です。

『日本書紀』は、7世紀後半、天武天皇の命令で編纂が始まり、約40年をかけて完成しました。この間、国家の基本法となる律令の制定、本格的な都城の藤原京や平城京の建設、地方では国府などの行政施設の整備が行われ、役人となる人びとには文字を書く素養が求められるようになりました。

こうした社会の変化は、ここ出雲でも同様であったと考えられます。地域の有力者たちは、役人として生きていくために、硯を傍らにして文字の習得に励んだことでしょう。

当時の文字資料には、文字が書かれた土器(墨書土器・刻書土器)や木製品(木簡)があります。

とりわけ、文字が書かれた土器は島根県東部(出雲国)で2000点以上見つっています。しかし、その90%以上は8世紀半ば以降のもので、『日本書紀』が編纂され

た7世紀後半から8世紀初めにかけての状況は、よく分からないのです。

そこで今回の展示に際して、発掘調査で見つかった土器の中から、硯に使われた土器を抽出し、『日本書紀』が編纂されたころに出雲の人びとがどこで文字を書いていたのか、いつから文字を書き始めたのかを考えてみました。

その結果、出雲市内の多くの遺跡で7世紀後半の硯を確認しました。市内で、この時期の文字資料はほとんど見つかっていませんが、文字を書ける人が各所にいたことが分かってきました。

また、文字資料を確認していなかった地区で硯を見つけることができました。その一例に、出雲平野の北部、高浜地区が挙げられます。

高浜Ⅱ遺跡(出雲市平野町)では、墨のついた8世紀の硯が見つかり、近くの下澤遺跡(出雲市矢尾町)でも7世紀初めや後半の硯を確認できました。つまり、高浜地区一帯には早くから文字を使う人がいたと考えられるのです。

こうした文字の使用は、高浜地区が、当時西流していた斐伊川が

最も北山に接近する位置にあり、北山沿いの道と交わる交通の要衝であったことが背景にあると考えられます。つまり、交易や物流での記録のために文字が使われたと推測できるのです。

高浜地区北方の北山の山裾に、7世紀後半の横穴式石室をもつ石臼古墳があり、この一帯の有力者の墓と考えられます。この高浜の地の利を活かして、力を得た人だったのかもしれない。

このように、古代の硯を通し、これまで見えなかった古代出雲の一面に光を当てることができました。



高浜Ⅱ遺跡で見つかった硯

(高橋 周)

★速報展

「1/800の調査
—史跡鰐淵寺境内の調査から—」

好評開催中！6月1日(月)

鰐淵寺境内で実施している発掘調査の成果を紹介しています。今回、出土した本覚坊跡は、鰐淵寺の中でもっとも古い僧坊(寺に付属する僧侶の住まい)の一つです。本覚坊の歴史を建造物の遺構と出土品からたどります。

(原 俊二)



★常設展を見に行こう！
「弥生の犬」をみつけてワン！

常設展にある西谷3号墓の模型には、かわいい犬がいます。弥生時代、人々は犬と力を合わせて狩りをしていました。人々は昔から、犬と一緒に生活していたんですね！

みつけてワン！



★ギャラリー展

「田儀櫻井家のたたら製鉄
その1 宮本鍛冶山内遺跡」

好評開催中！7月27日(月)

たたら製鉄は、砂鉄と木炭を原料とした日本古来の製鉄法です。江戸時代には松江藩によって保護・奨励され、出雲国を代表する特産品となりました。

たたらと言えば、奥出雲のイメージが強く、三大鉄師と呼ばれた田部家、櫻井家、絲原家など有名ですが、現在の出雲市内を拠点として製鉄をおこなっていたのが田儀櫻井家です。

田儀櫻井家は奥出雲仁多の櫻井家(可部屋)の分家で、17世紀中頃に現在の出雲市多伎町奥田儀に移り、1890(明治23)年に奥田儀を去るまで、およそ250年に渡って製鉄をおこなっていました。特に最盛期を迎えた幕末〜明治初めには、出雲国内で一、二を争う生産量を誇りました。

田儀櫻井家が製鉄をおこなっていた遺跡は、4箇所が国の史跡に指定されていますが、今回はその本拠地があった「宮本鍛冶山内遺跡」を取り上げます。

「山内」とは、製鉄に従事する

人々とその家族が暮らした集落のことで、田儀櫻井家が最盛期を迎えた明治初年頃には、この宮本山内に170世帯700人が暮らしていたとも伝わります。

この遺跡は、田儀櫻井家の本宅跡のほか、たたら場で作られた鉄を加工する大鍛冶場などの生産遺構、製鉄の従事者などが暮らした生活遺構、菩提寺の智光院や製鉄の神を祀る金屋子神社、歴代当主や住人の墓地など信仰に関わる遺構がまとまっている貴重なもので、見応えがあります。

今回の展示では、田儀櫻井家の栄枯盛衰の歴史と、宮本鍛冶山内遺跡の見どころを紹介しています。ぜひご覧ください。

(石橋 紘二)



田儀櫻井家の菩提寺・智光院

★古文書の森をゆく②
「日御碕行き遊覧船」

さざなみが打ち寄せる稲佐の浜に別れを告げ、県道大社日御碕線をしばらく北上すると、眼下に日御碕神社が見えてきます。鮮やかな朱塗りの社殿は、参拝客をあたたく出迎えてくれます。

現在の道では、自動車はもちろん、バイクや自転車の姿も見られます。しかし、これらの移動手段がない時代、参拝客は徒歩で神社へ向かうしかなかったのでしょうか。

江戸時代後期(約200年前)に刊行された「出雲神社巡拝記」という本には、日御碕に関して次のような記述があります。「風波しづかなる時ハ此浜(稲佐の浜)より舟にて行へし、其風景殊勝にして一々筆に尽がたき」。

つまり、日御碕へ行くには、稲佐の浜から船で行くことをオススメしている訳です。もちろん、海が穏やかな時という条件付きでした。

では、「風景殊勝」とは何なのか。それは、日御碕地域の海岸線に秘密があります。1700年代に成立したとされる地誌「出雲鉾」には、稲佐の浜近くの弁天島(現在は浜と陸続き)を始め、屏風岩・

幕島・黒島・経島などの景勝地点在する状況が記されているのです。

このことから、稲佐の浜を出発した船は沿岸の名所を巡りながら日御碕に向かったと考えられます。この船は、今で言う遊覧船だったのではないのでしょうか。

先程の本が刊行された頃、松江藩の名産や名物を相撲の番付風にランキングにした「雲陽国益鑑」という本が作られました。そこには、なんと「日御碕参物」がランキングにしているのです。多くの参拝客がもたらす経済効果は、日御碕地域にとって絶大だったことでしょう。それを支えたのが、遊覧船だったのかもしれない。

(中山 玄貴)



門前の浜から神社へ

★史跡公園のご案内

出雲弥生の森博物館に隣接する

西谷墳墓群
史跡公園「出雲弥生の森」では、5つの「よすみ」（四隅突出型墳丘墓）をみることができま



復元された「よすみ」



史跡公園の葉桜
(4月16日撮影)

これからの季節、植物はすくなく葉を茂らせ、史跡公園には青々とした緑が広がります。博物館を訪れた際には、ぜひ、史跡公園にも行ってみてくださいね！

★展示のご案内

▼春季企画展

好評開催中〜5月18日(月)

『日本書紀』1300年記念

硯から見た古代の出雲

▼ギャラリー展

好評開催中〜7月27日(月)

「田儀櫻井家のたたら製鉄

その1 宮本鍛冶山内遺跡」

▼速報展

好評開催中〜6月1日(月)

「1/800の調査

― 史跡鰐淵寺境内の調査から―

※観覧料は無料です。

※5月6日(水・振休)まで休館しています。詳しくは、博物館ホームページをご覧ください。

★イベント中止のお知らせ

5月に開催を予定していた、次のイベントは、新型コロナウイルス感染症予防のため中止とします。

5月2日(土)

よすみクッキーを作ろう！

5月3・4・5日(祝)

キャラ探しスーパ―

5月6日(水・振休)

おりがみで

「よすみちゃん」を作ろう！

★館長古来夢

出雲弥生の森博物館は、今年の4月29日に開館10周年を迎えます。地元の大津町をはじめとする出雲市民に支えられながらの歩みでした。

この間、渡邊貞幸名誉館長を中心とした西谷3号墓の調査報告書の刊行があり、さらに国富中村古墳の報告書刊行と国史跡指定、上塩冶築山古墳出土品の再調査と国重要文化財指定など、収蔵資料の調査研究を進めてきました。出雲市文化財課による鰐淵寺境内の発掘調査と報告書刊行、そして国史跡指定、あるいは「日が沈む聖地出雲」の日本遺産認定などなど。出雲市が誇る文化財と風土・景観は、まだまだこれから市民と県民と国民と世界の人たちに、もっともっと知ってもらわねえともしっかりと、と考えています。

誕生から10

年、これが日本の子どもだと小学校5年生です。「2分の1成人式」と言ったりしますが、



20歳の大人が備える性格とか性分とかは、10歳の時に定まっと思っているのは私だけでしょうか。

この博物館が「はたち」を迎えた時、市民の皆さんから愛され、期待される施設になるため、10年目の今年にやるべきことはたくさんある、と思うのです。

また今年1年、出雲弥生の森博物館をよろしくお願いいたします。

【追記】猛威を振るいつつある感染症。1300年前、日本を襲った天然痘が思い起こされます。聖武天皇が東大寺大仏を造ったのは、この病魔退散祈願のためでもありました。神頼み仏頼みになりませんように。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2020年4月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
<http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00 ~ 17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

